

2024年2月24日(土)

老球の細道777号

2月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

2024年は「うるう年」にあたるため、2月は「29日」ある。うるう年は五輪と同じように基本的に4年に1度ある。そのため2月29日生まれの人の誕生日はどうなるのだろうか。興味のある人は「民法143条2項」を。

それにしてもこんなに雪の少ない2月は過去にあっただろうか。天候が夏日になったり冬日になったり。そして世の中は収まらない能登地震復旧、政治倫理審査会の混乱、海外では増々深刻化するウクライナ戦争、イスラエル攻撃。激動の2月であった。

新年がスタートして2ヵ月が過ぎた。新年を迎えた頃の初志が徐々に炎を失いつつある。初志貫徹を念頭に軌道修正、訂正を図りながら、今後も老球の細道を愚直に歩んでいきたい。

1・読書から

◆「限りあれど 吹かねど 花は散るものを 心短き 春の山嵐」〈『火の兜 蒲生氏郷』：小野孝二著〉：「千利休」の本を読んでいる時に利休の弟子として武勇のみではなく文化人として名高かったわが会津藩の基礎を築いた蒲生氏郷を読み直した。やはりこの辞世の歌が記されている。今年も鶴ヶ城の桜を見ながらこの歌を口ずさもう。

◆「老いとは変化することであり、若い頃の過ちを“訂正”し続けるということ」〈『訂正する力』東浩紀：朝日新書〉：世の中は何かと「老い」のことが話題になり書籍にもなっている。当事者としては日々葛藤の連続である。ぶれないだけではなく、訂正しながら生き続けることが大切だと言う。老害への道を避けながら荒野を目指していこう。

◆「ふつうのことを考え、ふつうのことをしては、ふつうのことしかできない」〈『動小嶺忠敏の熱い風』大貫哲義著〉：一度きりの人生、自分の「普通」をレベルアップしたい。

2・新聞等から

◆「対人競技は自分の方が相手より強い、と自信を持つことが不可欠。それが良いパフォーマンスにつながり、その自信が、次の好結果を生む。その循環が大切だ」〈朝日：Weekly Paris 2024：フルーレ日本代表コーチ・ルベシュー氏〉：強い弱いは過去のこと。今、将来は神のみぞ知る。アップセットを起こす時には決して相手を強いと思ってはいけない。

◆「芸術は長く、人生は短し」〈朝日：人生充実〉：先日亡くなった音楽家の坂本龍一が生前吉永小百合との対談時によく語ったという。誕生は偶然、死は必然、幸福は自然、不幸は突然。この世に生を受けたるはやるべきことがたくさん。時間はあっという間に過ぎ去る。

◆「俺が思うのは、人間が成長するのは成功体験ですよ。負けても成長することはいっぱいある。でもね、やっぱり成功体験なの。苦しんで苦しんで、最後に勝ったっていうのはめっちゃ大きい」〈朝日：高校野球メソッド：明德義塾高校監督・馬淵史郎〉：人生の喜びの1つ「努力の後の勝利」。あるサッカーの強豪高校コーチ曰く「諦めない才能を育てるのがスポーツ最大の財産である」。指導者は選手に対して数多くの成功体験を得させる使命がある。